

## 日本におけるベンチャーファイナンスのあり方

近年、世界的なベンチャーブームの中、日本でもベンチャーブームが到来している。第4次ベンチャーブームと呼ばれるこの盛り上がりの背景には、IT業界の急成長やベンチャー企業への支援体制強化などさまざまな要因が挙げられる。ベンチャー企業は革新的なアイデアや技術をもとに新たなサービスやビジネスを展開するため、イノベーションの担い手とされている。今後、日本経済が持続的に発展するためにはこうしたベンチャー企業のさらなる発展が必要不可欠だと言えるだろう。

そこで、本テーマではベンチャー企業のさらなる発展・成長に向けて、主に財務的な面に重点を置き、日本におけるベンチャーファイナンスのあり方について議論して頂きたい。具体的には、ベンチャー企業の資金調達環境と出口戦略の2点を論点とする。

1点目の資金調達環境について、ベンチャー企業の総資金調達額は年々増加している一方、資金調達社数は増加しておらず、一部の企業に資金が集中している。また、ベンチャー企業と言っても、その性質はさまざまであり、本来は事業の将来性があってもリスクが高いことや資金提供者とのマッチングがうまくできていない等の理由で円滑に資金調達を行えていない企業も多い。資金調達に関してはエンジェル投資家やベンチャーキャピタル、コーポレートベンチャーキャピタル、政府系金融機関等といった資金提供者のみならず、信用保証協会のように信用リスクを補完する機関の存在や、クラウドファンディングのようにフィンテックを活用した新たな資金調達手段も普及しつつある。

2点目の出口戦略について、現在ベンチャー企業のEXITにはIPOとM&Aという2つの手法が主に用いられているが、上場後に倒産・上場廃止に至るケースや、買収後にシナジー効果を得られず失敗するケースなども少なくない。そのため、EXITの手法やタイミングなどそれぞれのベンチャー企業に合った出口戦略を行う必要がある。また、資金調達環境と同様、出口戦略に関しても株主や証券会社、買収企業など様々なステークホルダーが存在する。

以上を踏まえ、参加者の方々には日本のベンチャーファイナンスについて、望ましいあり方を述べた上でベンチャー企業の資金調達環境と出口戦略における現状と課題を分析し、課題解決に向けた具体的方策を提案、議論してほしい。また、その際にはベンチャー企業の成長段階に応じて分析を行うことや、資金調達者と資金提供者に加え、適宜その他ステークホルダーの観点を含めた多角的な視点から分析を行うことに留意して頂きたい。

なお、議論の際に各大学の認識のズレをなくすため、本テーマではベンチャー企業を「新しい技術、新しいビジネスモデルを中核とする新規事業により急速な成長を目指す新興企業」と定義する。さらに期間としては主に「創業からEXIT」までを対象とする。

主な論点	留意点
<ul style="list-style-type: none"> <li>ベンチャー企業の資金調達環境における現状と課題</li> <li>ベンチャー企業の出口戦略における現状と課題</li> <li>ベンチャーファイナンスの課題解決に向けた具体的方策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベンチャーファイナンスの望ましいあり方について言及すること</li> <li>ベンチャー企業の成長段階に応じた分析を行うこと</li> <li>資金供給者と資金需要者、その他ステークホルダーなど多角的な視点から分析を行うこと</li> </ul>